

## 平成30年度 校内授業研修会 教科別協議会「芸術科（美術Ⅰ）」

日 時：平成30年12月12日（水）14：25～15：15

場 所：1E教室

授業者：伊藤 直哉

参加者：指導助言者 総合教育センター指導主事 田森 舞

外部参加者 新屋高等学校 平野 則夫

横手高等学校 杉渕 拓夫

本校参加者 森元 弘毅、後藤 俊明、佐藤 幸彦(司会)、大須賀 浩、佐々木周子(記録)

### 1 授業者の感想

授業が長引いてしまったが、5班全部に発表してもらいたかったので、切り上げなかった。美術の先生以外の先生から見ても分かりやすいような授業と考え、「情報伝達」という分野で板書するという活動を取り上げてみた。研究授業で教室が空になるので、B～F組までの教室全てを使用した。E組の生徒たちについては、よく活動してくれていた。数学の班では、まだ習っていない内容だったのだが、自分たちで勉強して行っていた。

指導案の裏面に生徒たちの事前アンケートを載せたが、黒板による授業が最もよいという回答が多かった。先生が黒板の大きさに合わせて大きな字で書いてくれる点と、書く早さに合わせてノートをとれるという点がよいようだ。これに対して、プロジェクターは進みが早すぎてしまう、ホワイトボードはペンが細くて字が小さくなり、乱れた字になりやすく、読みにくいという意見があった。また、板書に、後から見てから分かるような説明を書いてほしいという回答も多かった。先生ごとに板書の見やすさや分かりやすさが違うので、先生によって板書の取り方を変える必要があるという回答もあった。全教科が板書を合わせることはできないと思うが、一定の枠組みがあればいいのかもしれないと感じた。こういった意見も合わせて、自分で板書をデザインしてみようという活動を行ってみた。

### 2 質疑応答

森元：時間が駆け足になったが、5班まで活動した後、最後どのように締めくくる予定だったのか。

授業者：カードを集め、一言ずつコメントを入れて締めくくりたいと感じていた。一応、カードを集めたので、この後、各班に配って考えてもらうことにしたい。

杉渕（横手）：全ての班がチョークでの板書だったが、あらかじめ紙に書いた物を掲示ということも考えられたと思う。これは意図的にやられたのか。

授業者：前日まで定期考査だったため、事前準備が難しかった。そのため、当日、黒板に書ける内容に限ることにした。

平野（新屋）：本時は全体計画2時間のうちの2時間目にあたるが、次の時間にやりたいことがあるのではないかと感じた。また、各班が選んだ教科が異なったのだが、どこを見ればよいのかがわかりにくかったと思う。プレゼンテーションのやり方の方が強く印象に残ってしまって、板書の評価が薄れてしまったように感じる。プレゼンを聞いて、評価用紙を教卓に置いて終わるのでは無く、先生から何かあった方が、ちょっとでも共有できるのではないかと感じた。秋田中央高校でやっているポスター作成活動と関連させるのであれば、美術が関わるところがたくさんある。最近、様々な教科で写真を貼ったり、図を書いたりして発表やプレゼンテーションを行う活動が増えてきた。そのため、このような活動は非常に大事だなと思った。SSHに限らず、様々な場面でこういった力が必要になると感じた。

### 3 グループ協議

○ 得た知識をアウトプットするような形の授業がより深い学びに繋がっていくと感じた。

○ 生徒が他の生徒にどんな風に伝えればいいのかを主体的によく考えていた。

○ 自分たちで発信することで、先生方の授業を見る際の新たな視点もできたと感じ、おもしろいと感じた。

△ どの班も板書の型が同じになってしまっている。より多様な表現があるのではないかと。

△ 板書は人に見られるものなので、書き順や漢字などにも気をつけることに気づかせてほしかった。

△ 最後に授業の振り返りが必要だった。自己評価・総合評価する場面を設定すれば、新たな気づきや発見をしていく上で、深い学びになる。

△ 最後、先生から黒板に対して一言ずつもらえれば、生徒たちとも共有できたのではないかと感じた。

- △ やはり予定にない3時間目が必要だ。出た意見を共有し、生徒の観点で、得られなかったことは何だったのかを考えるべき。できなかった表現を自分たちで追求しようという姿勢があれば大成功だったと感じた。
- △ 発表が主役になってしまい、黒板をどう使ったかという美術ならではの部分が薄れてしまった。パフォーマンスによらない部分があってもよかったかもしれない。

#### 4 指導助言

- ① 生徒が意欲的に取り組んでいた。制作途中で互いに自然な言語活動が見られた。そこで批評し合う活動も見られ、聞く姿勢もよく、伝える側の気持ちとなって聞いてくれていた。今後も授業でも言語活動の充実を図られてほしい。
- ② 深い学びになるためには、美術における造形的な見方・考え方が大切になってくる。生徒から「色を工夫しています」という声が聞かれたが、色だけで無く、全体的なイメージ・バランスなども入ってくるので、さらに造形的なことについて考えられるようになるよう、工夫が必要だと感じた。
- ③ チョークの色を増やしてあげるなどの工夫が必要だ。また、チョークだけでは限界があるので、もっと違う表現材料を準備してあげることも考えるべきだ。
- ④ 評価は1～2の方がよい。また、授業の振り返りを行い、先生の言葉で価値付けをしてもらいたい。互いに評価し合う3時間目を設定し、さらに学びを深めてもらいたい。また、生徒が評価した用紙に色、形など造形的な要素を設定してあげるとよいと感じた。